

初任者研修通信

No.5

令和3年1月8日(金)発行

授業の工夫 紹介！

小学部(Ⅲ類型)生活活動
杉野先生



授業で見つけた

知りたい！伝えたい！やってみたい！

ボンド絵の具を絞って飾り付けました。
ボンド絵の具は乾くと固まって手触りを感じられます。



知りたい！

人参の葉っぱをちぎってラミネートしたものを使ってリース作り。ラミネートすることで、葉っぱのぼこぼことした手触りが面白く、触って楽しむことができました。手でつかんだり表面をなでたりして触れたり、顔に当てて光に透かして見たりして興味津々の様子でした。

知りたい！

ゆずや木の枝などを触って手触りや香りを感じました。繰り返すと、自分の好きな香りや手触りのものを引き寄せたり、手で探って探索したりして積極的にかかわる姿が見られました。



伝えたい！やってみたい！

シーツブランコを使ったそりあそび。マットの中間にロールを挟むことで、ガタンガタンと音や振動を感じられるような工夫がありました。回数を重ねるごとに、振動を予測して笑顔になったり、目をつぶったりして期待感いっぱいの表情が見られました。順番が来るまで友達の様子を見て笑ったり、待ちきれなくて身体を動かしたりしてやりたい！を表現していました。



肢体不自由教育ミニ研修

テーマ：摂食指導について（１）

今回のテーマは「摂食指導」です。肢体不自由のある児童生徒は、運動のまひや筋緊張の異常があるために、食べることに様々な課題を持っています。特に、重度重複障害のある児童生徒は、ごっくんと飲み込むことが難しい様子が多く見られます。私たちがどのように食べ物を口に運び、飲み込んでいるのかその流れと指導・支援についてまとめました。

<摂食嚥下の流れ>

1 先行期 食べ物を見たり、においを感じたりして食べ物の形や量、熱さ、硬さなどを確認します。

エプロンを付ける、手を洗うなどの食事の準備を一定にすることで、これから食事が始まることを感じられるようにしましょう。児童生徒の口に食べ物を運ぶ前に、食べ物を見せたり、におわせたりして食べ物を確認できるようにしましょう。



2 準備期 食べ物を口の中に取り込み、飲み込みやすいように口の中でまとめます。

食べ物を口に入れるときには下唇にスプーンを置き上唇を下ろすまで少し待つようにしましょう。難しい時は可能ならば口を閉じられるように介助を行うと、食べ物を取り込みやすく、飲み込みもしやすくなります。



3 口腔期 口腔内で食べ物を飲み込みやすいようにまとめて喉に送り込みます。

口腔内で食べ物をまとめるときに、児童生徒が舌をどのように動かして食べているかをよく見ましょう。前後のみの舌の動きでは、食べ物を口の中でまとめたり喉に送り込んだりすることが難しいことが考えられます。食形態が舌の動きや飲み込みの力に合っているかを確認しましょう。

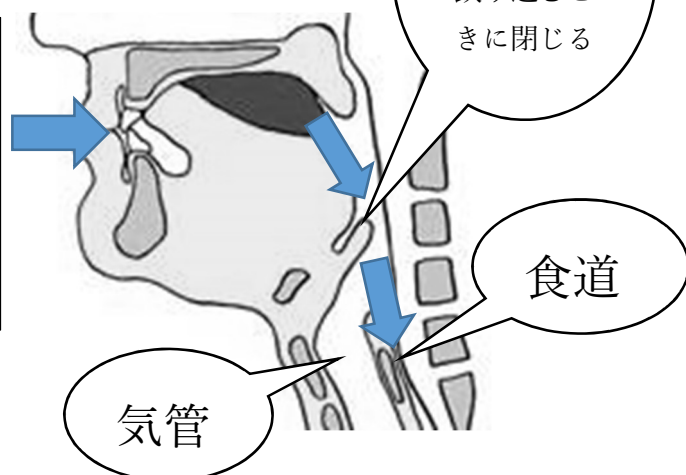
4 咽頭期 食べ物を喉から食道へ送り込みます。

5 食道期 食べ物を食道から胃へ送り込みます。

<のどの仕組み>なぜ、むせが起こるのでしょうか。

安全な摂食指導のためには、のどの仕組みを知っておくことが大切です。

右図のように、気管はのどの胸側にあり、食道は背中側にあります。飲み込むときには咽頭蓋が閉じて気管に蓋をすることで安全に食道に食べ物を送り込むことができます。うまく閉じられないと誤って気管に食べ物が入ってしまいます。これを誤嚥といいます。



空気の道と食べ物の道は、咽頭で気道と食道にクロスしています。

参考引用文献

子どもの摂食嚥下リハビリテーション 食べる機能を支援する40のポイント 田角 勝 著
目からウロコの重度重複障害児教育 松元泰英 著
画像出典：IPA「教育用画像素材集サイト」